

令和 2 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

変化の激しい社会の中で、豊かな感性、確かな学力、あくなき探究心をもって生き抜く子どもたちを育てる学校

- 1 学びに向かう意欲を高め、自己実現に導く教育活動を展開する。
- 2 確かな信頼関係を基盤に、豊かな人間力を育む教育活動を展開する。
- 3 先進的・先導的な教育実践に、教育センターと一体となって取組みを進める。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取組み

- ア 知識・技能の活用を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育む。
- イ 学びを活かそうとする意欲の向上を図る。
- ウ 読解力の育成・充実を図る。

※学校教育自己診断（生徒）で「授業はわかりやすく、教え方に工夫してくれる先生が多い」（H29：64.9%、H30：54.7%、R01：53.9%）を前年度比で増加させ、令和4年度には70%以上にする。

2 教育センターと一体となった授業研究

(1) 先進的・先導的な教育実践や授業研究を教育センターと協働で行い、その成果を発信する。

- ア カリキュラム・マネジメントの研究・実践を重ね、成果を発信していく。
- イ 観点別学習状況評価についての研究・実践を行い、成果を発信していく。
- ウ 実力テスト・授業研究月間等を活用した授業改善の手法を実践し、成果を発信していく。

(2) 探究ナビを教科横断型の教科として研究・実践を行う。

- ア 「社会人基礎力」の育成を意識した授業実践を行う。

3 多様な価値を認める人間性のはぐくみ

(1) 誰もが個性や趣向を肯定され、他人を尊重し、多様性を認めて共生する集団づくりを促進する。

- ア 安心して学校生活を送れる居場所としての集団づくりを進める。
- イ 人権教育を基盤とした生徒指導と細やかな生徒観察により、課題の早期発見に努める。
- ウ 情報リテラシーの育成を図る。

※学校教育自己診断（生徒）で「クラスには自分の居場所がある」の肯定的回答を（H29：82.3%、H30：82.6%、R01：81.6%）を前年度比で増加させ、令和4年度には85%以上にする。

※学校教育自己診断（生徒）で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定的回答を（H29：66.8%、H30：63.2%、R01：60.8%）を前年度比で増加させ、令和4年度には70%以上にする。

(2) ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成する。

- ア 探究ナビをキャリア教育の柱とし活用型の授業に取り組む。
- イ 自ら学びに向かう力を育成し、授業以外での学習習慣を付けさせる。また、関西の中堅の大学への進路実現を希望者の75%以上、難関大学等への合格者を輩出する。
- ウ 中高連携を進め、教育相談体制のさらなる充実を図る。

※学校教育自己診断（保護者）で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定的回答を（H29：72.3%、H30：73.4%、R01：65.6%）を前年度比で増加させ、令和4年度には75%以上にする。

4 安全で安心な学びの場づくり

(1) 生徒が安全で安心な学校生活を送ることができるよう環境を整備する。

- ア すべての教職員が危機意識を持ち、危険予知に関する知識と緊急事態への対応能力を向上させる。
- イ 生徒が気軽に相談できる環境を整備する。
- ウ いじめを見逃さない教職員集団を作る。



【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 3 年 1 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】</p> <p>○肯定的評価が増加した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中で自分が認められたり、ほめられたりすることがある（60.5%→69.4%） ・授業はわかりやすく、教え方に工夫してくれる先生が多い（53.9%→63.5%） ・先生は、真剣に、自分の事を考えて指導してくれていると思う（61.6%→70.2%） ・命の大切さや人権を尊重した教育活動がなされている（72.6%→81.4%） <p>○肯定的評価が減少した項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みずから進んで自分がリーダーの役割を引き受けることがある（35.5%→34.5%） ・授業では、実験・観察・実習をしたりすることがよくある（40.0%→32.1%） ・防災や防犯について、緊急時の行動を知らされている（68.2%→60.0%） ・学校の施設・設備に満足している（36.7%→34.8%） 	<p>第1回（書面開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習に対するメタ認知能力を高めることで、自律的な学習者を一人でも多く育成できることを期待しています。 ・スマートスクール推進事業の協力校になったことはこれまでのシステム化された授業研究の取り組みを一層充実させるチャンス。ぜひ頑張ってもらって積極的な成果の発信に努めてほしい。 ・安全安心な学校づくりの指標である「クラスには自分の居場所がある」の肯定的回答率が常に80%以上あるのはとても良いこと。一方、「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定的回答率（60%台）については、悩みの主たる相談相手が友だちなのではと考えた時に、数字をどう解釈するか難しいものがある。

<p>【保護者】</p> <p>○肯定的評価が増加した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている（69.8%→75.6%） ・学校の生徒指導の方針に共感できる（68.9%→73.5%） ・学校の施設・設備は整っていて、良い学習環境が作られている（52.8%→59.0%） <p>○否定的評価が増加した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の行事は、活発に行われている（78.8%→66.0%） ・この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある（67.6%→50.8%） <p>【教職員】</p> <p>○肯定的評価が増加した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての生徒が意欲的に取り組む授業をめざして、日常的に創意工夫を凝らしている（75.7%→91.2%） ・生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている（89.5%→94.1%） ・教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる（94.7%→100%） ・いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる（84.6%→91.2%） <p>○否定的評価が増加した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている（91.9%→76.5%） ・すべての教育活動において、人権を尊重した教育がなされている（94.6%→79.4%） ・近隣の学校などとの交流の機会を設けたり、地元とのつながりを大切にしたり取り組みを進めている（64.9%→26.5%） <p>今年度のアンケート結果について、生徒に対しては回答 23 項目のうち 19 項目において肯定的回答が増加し、なかでも生徒の自己肯定感の向上に関する内容項目における肯定的回答の増加が顕著である。コロナ禍において実験・観察・実習の制限がかかったためその部分の評価は下がったが、それ以外の授業に関する項目の肯定的回答は増加した。集団づくり研修や授業研究委員会等による取り組みの成果と考えられる。今後もこれらの取り組みは継続して進めていくことで、教え方の工夫に関する項目の肯定的回答を増加させていきたい。</p> <p>一方、生徒以外に対するアンケートも含め、肯定的回答が減少した項目をみると、学校行事や地域連携に関する項目は今年度ならでのものといえる。しかし、学校の施設・設備や校長の学校運営における肯定的回答の減少については、迅速な整備や意思疎通の工夫などに取り組むことで、次年度に回復できるようにしたい。</p>	<p>第2回（12/8）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強時間の捉え方として、探究ナビの準備にかかる時間もリサーチすればいいのではないか。 ・コロナ禍で否が応でもICTへの対応が迫られる中、ICTのスキルがアップする状況がある。ピンチをチャンスに変えることができるよう、取り組みを進めていってもらいたい。 ・先生方はよく相談にのってくれる。学校のようなHPやメールでいただけることもありがたい。 <p>第3回（2/24）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍という今年度の特殊性はあるが、地域連携の項目に対する生徒の評価が低い。地域連携をより進めてほしい。 ・オンラインを活用した生徒の「居場所」づくりについても検討してほしい。 ・図書館における図書の実態にこれからも努めてほしい。 ・中学生にとっては高校進学が大きな関心事であるので、より中高連携を進めてほしい。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)基礎学力の定着をめざした授業研究</p> <p>ア)知識・技能の活用と思考力・判断力・表現力の育成</p> <p>イ)学びを活かそうとする意欲の向上</p> <p>ウ)授業以外の学習習慣の定着と学ぶ力の育成</p>	<p>(1)基礎学力の定着をめざした授業改善への取組み</p> <p>ア)授業研究委員会、教科会議において、学力生活実態調査や実力テスト等の結果を分析し、学んだ知識・技能の活用を想定した授業づくりを進める。</p> <p>イ)各教科で付きたい力を生徒に伝え、各教科での学びを活用できるような課題を取り入れ、意欲を向上させる。</p> <p>ウ)入学当初の授業以外の学習時間を維持し、年次進行とともに増えるよう学習習慣を定着させる。また、適切な課題を設定し、</p>	<p>ア)考査問題に活用力をみる設問を取り入れるとともに、アンケートにより、生徒の変容を見る。授業アンケートで「知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均が、前年比を上回る。(令和元年度3.1)</p> <p>イ)学校教育自己診断(生徒)で「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い」の肯定率60%以上(令和元年度53.9%)「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」の肯定率50%以上(令和元年度46.4%)</p> <p>ウ)アンケート調査で実態を把握し、ほとんど学習しない生徒の数を、前年度比で減少にさせる。</p>	<p>ア)・授業アンケート「知識・技能が身に付いたと感じる」の全平均は3.13(○)</p> <p>イ)・学校教育自己診断(生徒)で「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い」の肯定率63.5%(◎)、「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」の肯定率54.2%(◎)</p> <p>ウ)・ほとんど学習しない生徒数は、4月、9月、1月の順に(カッコ内は昨年度) 1年次生 79(65)、104(136)、</p>

大阪府教育センター附属高等学校

	<p>工) 読解力の育成</p>	<p>授業以外に学習しやすい環境を整える。</p> <p>工) すべての教科で、読解力の育成をめざした取組みを実施する。読書等、文章を読むことを啓発するとともに、引き続き図書室の整備を進める。</p>	<p>工) 図書室の利用者数を前年比の同規模を維持する。(令和元年度 2,399 人、平成 30 年度 441 人) ※授業含む</p>	<p>108 (124) 2 年次生 135 (153)、145 (151)、133 (144) (○) 工)・12 月末現在、図書室の利用者数は 326 人(今年度は授業での利用者は集計しておらず、昨年度は授業を除くと 119 人) (◎) ・引き続き蔵書の充実に努めていくとともに、授業での活用や「図書館だより」の発行等により利用を促していく。</p> <p>(1 確かな学力の育成全般について) ・引き続き授業研究委員会等を中心に、より良い授業づくりに向けて取組みを進めていく。</p>
<p>2 教育センターと一体となった授業研究</p>	<p>(1) 先進的・先導的な授業研究及び授業実践 ア) カリキュラム・マネジメントの研究・実践 イ) 外部テスト等を活用した授業研究・改善</p> <p>(2) 探究ナビを教科横断型の教科として研究・実践 ア) 「社会人基礎力」の育成</p>	<p>(1) 先進的・先導的な授業研究や授業実践を教育センターと協働で行い、その成果を校内で共有するとともに発信する。 ア) 学年別年間指導計画をもとに、各教科での学びを共有し、教科間で補完し合いながら学べるようにする。 イ) 学力生活実態調査等の結果から、明確となった課題で共有し、各教科の授業研究に生かす。</p> <p>(2) 探究ナビを教科横断型の教科として研究・実践を行う。 ア) 各教科で「社会人基礎力」(実社会で必要かつ役立つ力)の育成を意識した内容を授業に取り入れ、成果を検証する。</p>	<p>(1) ア・イ) 生徒への授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均が、前年比を上回る。(令和元年度 3.1)</p> <p>(2) ア) 生徒への授業アンケートで「知識や技能が身に付いたと感じる。」の全平均が、前年比を上回る。(令和元年度 3.1)</p>	<p>ア・イ)・生徒への授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均は 3.12 (○)</p> <p>ア) 授業アンケート「知識・技能が身に付いたと感じる」の全平均は 3.13 (○)</p> <p>(2 教育センターと一体となった授業研究全般について) ・教育センターとの連絡会議を軸として、各教科の教諭と指導主事との連携を密にしながら取組みを進めていく。</p>
<p>3 多様な価値を認める人間性のはぐくみ</p>	<p>(1) 多様性を認めて共生する集団づくり ア) 居場所としての集団づくり イ) 課題の早期発見</p>	<p>(1) 誰もが個性や趣向を肯定され、他人を尊重し、多様性を認めて共生する集団づくりを促進する。 ア) より良い人間関係が構築できるように、クラスづくりの導入となる活動を取り入れ、安心感のある集団づくりをめざす。人権ホームルームや各授業において、積極的に発表したり、意見が言いやすい雰囲気づくりをめざす。 イ) 支援の必要な生徒の情報を、担任会や教育支援委員会を中心に共有し、課題が深刻化しないよう努める。</p>	<p>(1) ア) ①学校教育自己診断(生徒)で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率 80%以上(令和元年度 74.8%) ②学校教育自己診断(生徒)で「クラスには自分の居場所がある」の肯定率 85%以上(令和元年度 81.6%) イ) 学校教育自己診断(生徒)で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 64%以上(令和元年度 60.8%)</p>	<p>ア) ①学校教育自己診断(生徒)で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率 82.8% (◎) ②学校教育自己診断(生徒)で「クラスには自分の居場所がある」の肯定率 84.1% (△) イ) 学校教育自己診断(生徒)で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 67.5% (◎)</p>

大阪府教育センター附属高等学校

	<p>ウ) 情報リテラシーの育成</p> <p>(2) ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成</p> <p>ア) 活用型の授業の推進</p> <p>イ) 学ぶ力の育成</p> <p>ウ) 教育相談体制及びガイダンス機能の充実</p>	<p>ウ) あらゆる教育活動を通して、適切な情報の収集、発信、活用について啓発を行う。</p> <p>(2) ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成する。</p> <p>ア) 探究ナビ(人とつながる、社会とつながる、未来を拓く)をキャリア教育の柱とし活用型の授業に取り組む。</p> <p>イ) 学ぶ意欲を喚起し、生徒の進路実現を図る。</p> <p>ウ) ①多様な進路を実現するため、相談しやすい体制づくりを進め、将来を見据えた科目選択を支援する。また、相談体制を整えるための教員研修を実施する。</p> <p>②複数顧問等による役割分担、終了時間を定めた会議の運営により、相談時間が確保できるようにする。</p>	<p>ウ) SNS等、ネット上での課題の減少</p> <p>(2)</p> <p>ア) ①学校教育自己診断(保護者)で「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定率83%以上(令和元年度79.2%)</p> <p>②同診断(生徒)で「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率84%以上(令和元年度79.7%)</p> <p>イ) ①生徒への授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。知識や技能が身に付いたと感じる。」の全平均3.3以上(令和元年度3.1)</p> <p>②関西の中堅の大学への進路実現を希望者の75%以上。また、難関大学等への合格者を輩出する。</p> <p>ウ) ①学校教育自己診断(保護者)で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定的回答69%以上(令和元年度65.6%)</p> <p>②学校教育自己診断(生徒)で「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率65%以上(令和元年度63.4%)</p>	<p>ウ) SNS等、ネット上での課題件数は減少(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア) ①学校教育自己診断(保護者)で「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定率81.6%(△)</p> <p>②同診断(生徒)で「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率80.8%(△)</p> <p>イ) ①生徒への授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均は3.12(△)</p> <p>②近畿大学等関西の中堅大学への進路実現率は希望者の73.8%。(△)</p> <p>ウ) ①学校教育自己診断(保護者)で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定率67.9%(△)</p> <p>②学校教育自己診断(生徒)で「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率70.6%(◎)</p> <p>(3多様な価値を認める人間性のはぐくみ全般について)</p> <p>・クラス開き研修をはじめとする研修や探究ナビ、ポートフォリオの活用、進路関係の行事等を通じて多様な価値を認める人間性を育てていく。とくにキャリア教育に関わる部分できめ細かなサポートをしていきたい。</p>
<p>4</p> <p>安全で安心な学びの場づくり</p>	<p>(1) 生徒が安全で安心な学校生活のための環境整備</p> <p>ア) 危険予知及び緊急事態への対応能力の向上</p> <p>イ) 相談できる環境の整備</p> <p>ウ) いじめの未然防止・早期発見・早期対応のための教職員集団</p>	<p>(1) 生徒が安全で安心な学校生活を送ることができるよう環境を整備する。</p> <p>ア) 河川堤防の決壊等、懸念される現実的な災害を想定した訓練を実施する。</p> <p>また、安否確認体制を整える。</p> <p>イ) 教科の準備室や職員室付近で気軽に質問や相談ができる場を拡充する。</p> <p>ウ) アンケート等を効果的に活用し、課題の把握に努め、教育支援委員会等により教職員間で情報を共有し、深刻な問題に発展しないよう未然防止に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア) 計画どおりに実施する。</p> <p>イ) 空き教室等の有効的な活用を進める。</p> <p>ウ) アンケート等への生徒からの発信量や内容を検証する。</p>	<p>ア) ・住吉区総合防災訓練に参加</p> <p>・グループウェアの導入により、生徒の安否確認の体制をとることができるようになった。(○)</p> <p>イ) 空き教室の活用とともに、渡り廊下にベンチを設置することで、質問や相談ができる環境を整えた。(○)</p> <p>ウ) いじめアンケートの生徒自由記述欄に記入のあった11件(昨年度は10件)について、教職員により迅速に対応できた。(○)</p>